

1

今年度の結果と取り組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

国語

国語A (領域ごと) ①話すこと・聞くこと やや課題が残る結果であった ②書くこと 概ね良好な結果であった ③読むこと やや課題が残る結果であった ④言語事項 概ね良好な結果であった ⑤関心・意欲・態度 (問題形式) ①選択式 概ね良好な結果であった ②短答式 概ね良好な結果であった ③記述式 (無解答率) 概ね良好な結果であった (その他) ・漢字を読む・書く設問の正答率が高かった。 ・「読むこと」の領域で、聞き方の説明として適切なものを選んだり、説明の文章の書き方の工夫で適切なものを選んだり、筆者の体験を書いてあるまとまりを選んだり、筆者が引用している言葉を書き抜く設問に対する正答率が低かった。	国語B (領域ごと) ①話すこと・聞くこと ②書くこと 概ね良好な結果であった ③読むこと 概ね良好な結果であった ④言語事項 ⑤関心・意欲・態度 (問題形式) ①選択式 概ね良好な結果であった ②短答式 概ね良好な結果であった ③記述式 概ね良好な結果であった (無解答率) 概ね良好な結果であった (その他) ・文章と図を関係づけて、自分の考えを書いたり、声に出して読むときの工夫とその理由を書く設問の無回答率が高かった。
--	---

分析

- ・国語 A の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、国語 B の「読むこと」「書くこと」において全国平均を上回ることができた。
- ・国語 A で「話すこと・聞くこと」「読むこと」でやや課題が残る結果となった。また、国語 B では内容をまとめて書いたり、場面のまとまりを読み取り、適切なものを選択する設問で全国平均を下回った。
- ・適切な内容を選択したり、適切な内容を書き抜いたり文章や図と関係づけて自分の考えを書いたり、理由を述べる設問で無回答率が高くなった。

○●算数・数学●○

算数・数学A

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

やや課題が残る結果であった

③図形

良好な結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

良好な結果であった

③記述式

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・数と計算・図形の領域の正答率が高く、量と測定、数量関係の領域の正答率がやや低かった。
- ・図形・数量関係において無回答が若干みられた。

算数・数学B

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

概ね良好な結果であった

③図形

概ね良好な結果であった

④数量関係

やや課題が残る結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

やや課題が残る結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・割合・概数の問題の正答率が低く、無回答率も高かった。
- ・図形・量と測定領域の正答率は高かった。

分析

・算数 A においては、小数の減法や小数の数の組み合わせ、数のしくみ、 180° より大きい角の大きさの問題や到着時刻から出発時刻を求める問題、問題に即したグラフを選択する問題の正答率が全国平均を下回った。

・算数 B においては、4 年生で学習する概数や 5 年生で学習する割合、単位量あたりの大きさの問題の正答率が低く、無回答率が高かった。また、低位層が高位層を上回り、高位層が「0」という結果となった。

・全国平均を上回った正三角形の性質を利用し、巻き尺を使って作図する問題や図形の面積を 2 等分する考えを踏まえて面積が等しいわけを記述する問題については無回答率が高かった。また、概数や概算を活用した応用問題、図形の性質を理解して道のりが等しい根拠を述べる問題で無回答率が高かった。

理科

(区分ごと)

①物質

やや課題が残る結果であった

②エネルギー

概ね良好な結果であった

③生命

概ね良好な結果であった

④地球

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

やや課題が残る結果であった

③記述式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・地球区分の問題は、関心度がたかいためか、正答率が高かった。
- ・グラフの読み取りや道具の名称で無回答率が高かった。

分析

- ・正答率が高い問題でも、無回答率も高い問題が多い。理解できているかできていないか、覚えているかいないかが、はっきり分かれ、二極化傾向がみられる。
- ・観察・実験の結果を整理し考察することについて、得られたデータと現象を関連付けて考察することはできている児童が多かった。しかし、実験の結果を示したグラフを基に定量的に捉えて考察すること、理由を説明することに課題がある。
- ・予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験を構想したり、実験結果を基に自分の考えを改善したりすることに課題がある。

- ・物が水に溶ける量は水の温度によって違うことや、この性質を利用して溶けている物を取り出すことについて、実感を伴って理解できるようにすることが大切である。
- ・メスシリンダーなど器具の適切な扱い方を身に付けるためには、器具の操作手順の理解だけではなく、操作の意味を理解することが大切であるので、意味について考えられるように指導することが大切である。
- ・自然の事物・現象を多面的に考察するためには、視点を明確にしながら観察記録を整理したり、差異点や共通点に着目しながら気付いたことを話し合い、考察できるようにすることが大切である。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

- ・平均正答率は全国平均をわずかに上回り、無回答率は、全国平均なみであった。
- ・教科別の平均正答率では、国語 A、国語 B、算数 A は全国をわずかに上回る結果となった。算数 B、理科に関しては若干全国平均を下回る結果であった。

学力高位層と学力低位層についての分析

- ・今年度は学力低位層の割合が減少し、学力高位層の割合が昨年度よりも若干増加した。
- ・高位層と低位層の差は過去 7 年間の中で一番少ない値を示した。

〇●取り組み●〇

＜学力向上に関する取り組み＞

【国語】

昨年度の課題としてあげた「書く力」については、全国平均をわずかに下回る結果となったが、書くことへの抵抗感をなくすことを目的とし、校内で取り組みを進めた結果、一定の成果はあったと思われる。校内での取り組みとして、①朝学習「ことばタイム」(視写)、②授業で感じたことや考えをかく、③宿題の日記、感想文などである。

今年度は国語 A の「話すこと・聞くこと」「読むこと」の 2 領域において全国平均を下回っており、国語の 3 つの領域についてバランスよく児童に学力をつけさせるための指導の工夫が必要である。

(授業の流れ) 問題を読む(内容をとらえる)⇒自分の考え、感じたことを書く⇒少人数で交流⇒全体で考えや思いを交流し、深める⇒ふりかえり

○昨年度に引き続き行っている取り組み

- ・朝学習 毎週月曜日の「読書タイム」、水曜日「ことばタイム」
- ・読書ノートを活用
- ・学期に 1 回「校内漢字検定(50 問)」

【算数】

・4 領域のうち図形領域のみ算数 A も算数 B も全国平均を上回ったが、3 領域においては課題が残る。算数 B では「概数」「割合」「単位量あたりの大きさ」を問う問題に課題が見られた。

(授業の流れ) 問題をただ解くだけでなく、まず、問題を読み取る⇒問題のイメージを図に表す⇒いろいろな方法で解けないか考える。⇒友達の考えを理解しながら聞く。自分との違いと比較して聞く。A の考え・やり方を B が説明する。(思考を深めていく)

解けない、できないとなった時、あきらめずに、他に方法はないか粘り強く問題に取り組む意欲も必要である。少人数担当と担任が連携して基礎基本+思考力・判断力・表現力を培う学習指導を進めていく。

今年度から学期に 1 回「算数の授業アンケート」を行っている。児童の算数への興味・関心・意欲、理解度、最後まで解いたかを調査し、結果から見えてきたクラスで課題を持つ児童に対してきめ細やかな対応ができるように支援していく。

○昨年度に引き続き行っている取り組み

- ・朝学習 毎週金曜日「計算タイム」1 学期 100 マス計算 2 学期以降 各単元の復習計算問題
- ・3 学期末 「計算たしかめテスト」

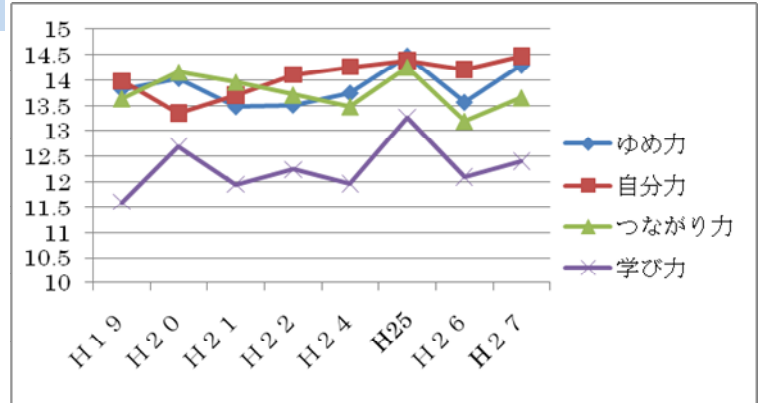
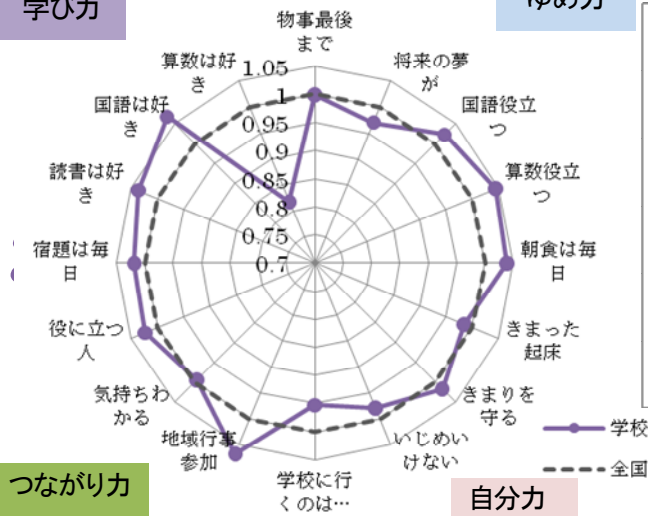
○●子どもたちに育みたい力●○

今年度の結果

これまでの推移

学び力

ゆめ力



分析

(ゆめ力)

将来に対する夢や目標は概ね持っているという結果であるが、算数に関しては役に立つとは思っているが好きではないと回答した児童が多かった。

(自分力)

きまりを守っていると6年全員が回答しているが、行動はともなっていない。いじめについても、ほとんどの児童がいじめないことだと思っているが全員ではない。

(つながり力)

地域行事には家族ぐるみで参加できている。学校に行くのが楽しいとほとんどの児童は思っているがクラスの1割は思っていない。自分たちで自分たちのクラスを運営しよう、よくしようとする意識が低い。

(学び力)

国語・読書は好きだが、算数は好きではない児童が多い。

取り組み

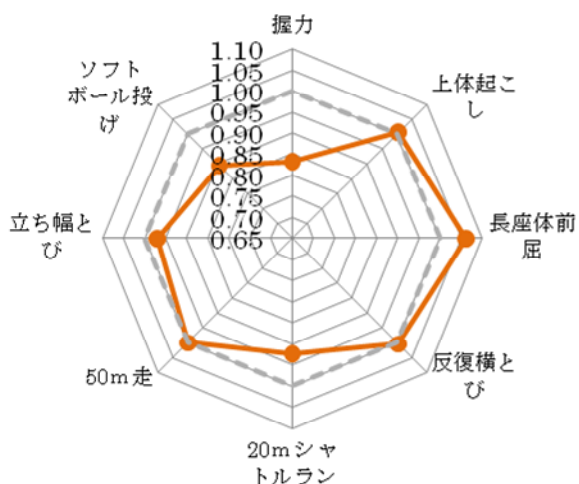
- ・読書ノート・読書カードの取組みにより、本校児童の読書に対する意識は高い。
- ・「生活リズム名人」アンケート・・・北中のテスト1週間前から「家庭学習強化週間」として家庭生活環境を整えること、基本的な生活習慣を見直すことを目的として取り組んでいる。朝食、起床時間、ゲームやテレビやDVD、携帯などと学習時間との兼ね合いなどが結果として見えてくるので、各学年の課題を次のアンケートに生かす形で取り組んでいる。
- ・北中スタンダード「めあて・ねらい」「考える時間」「ふりかえり」ができています。
- ・自尊感情の低さがゆめ力や学び力、自分力の弱さにつながっていると思われる。児童の自尊感情を高める活動として、ペア学級での取り組みを行っている。いっしょに遊んだり、そうじをしたり、朝学習の「計算タイム」で高学年が低学年を教えてあげたり、高学年が低学年に読み聞かせを行う予定である。

(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

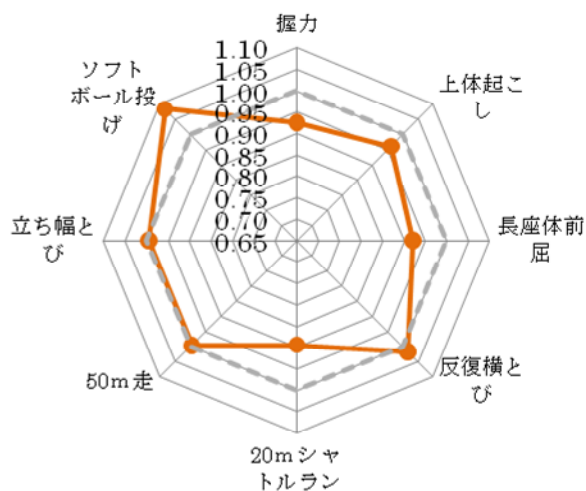
男子 (小5 中2)

小5 男子



女子 (小5 中2)

小5 女子



分析

男子においては、立ち幅とび、ソフトボール投げ、握力、シャトルランが全国平均を下回った。女子においては、上体起こし、長座体前屈、握力、シャトルランが全国平均を下回った。男女共通して下回ったのは、握力とシャトルランであった。筋力や持久力を生かす種目に課題が残った。

しかしH26年度の結果と比べると、H27年度は男女とも全体的に平均に近いバランスのよい結果となった。またH26年度の4年生とH27年度の5年生の結果と比べると、男女ともH26年度の結果を大きく上回った。児童の体格が大きくなり、筋力がついたことも一因と考えられる。

取り組み

- ・今年度体力テストの実施にあたり、事前に全教職員がスポーツテスト講習を受講した。教職員の意識統一にも生かせ、より正確に測定することができた。また体育の授業内でも行える指導ポイントをいくつか学ぶこともできた。
- ・昨年度に引き続き、持久性や体力向上を高めるため、かけ足・なわとび週間に取り組む。また茨木っ子運動を体育の授業や運動会の準備運動に取り組んでいるので、児童の体力づくりに生かしていきたい。
- ・新たな取り組みとして、児童のバランスの取れた体力向上のために、授業内だけでなく休み時間も積極的に体を動かすことを目指し、その一つとして鉄棒に取り組む。日ごろから児童に親しみやすい遊具でもあり、授業でも行うことができるからである。低・中・高に合わせた鉄棒カードを配布し、児童の意欲も高めていきたい。

2 3年間の計画

	(各校)		(ブロック共通)
	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
目標	確かな国語力の育成をめざして	体力の向上をめざして	目標に向かって最後まで努力できる子どもを育てる
平成26年度	- 朝学習の充実 月2回の「ことばタイム」(聴写) - 毎週月曜日「読書タイム」 - 毎週金曜日「計算タイム」 「聞くときの約束」「話すときの約束」の掲示 - 漢字検定(50問) 学期に1回 - 各学年、練習用100問プリント作成 90点以上「認定証」 - 生活リズム名人で家庭学習実態調査 - 年4回(6月、9月、11月、1月) - 計算確かめテスト 年1回 - 研究授業(3年・4年) - 研究授業観察シートの作成 - 全国学力学習状況調査の分析(9月) - 夏休みに学習会を実施(5日間) - 読書ノートの取り組み	- マラソン大会の充実 - マラソン週間の設定 - マラソン大会の設定 - マラソンカードの配布 - 多様な動きの育成 - 茨木っ子運動の研修 - 茨木っ子運動を授業に取り入れる - 指導力の強化 - 体力向上プロジェクトの研究授業にむけての取り組み	- 小中連携担当・学力担当者会(月に1回程度) - 夏季研修会(集団づくり、班編成の交流) - 授業で共通実践項目を実施 - 旧小6担任の中学1年の授業参観と交流(1学期) - 中学3年教師が各小学校の6年の授業参観(1学期) - 英語教育推進担当者会議 - 出前授業・参観 - 合同授業研修(道徳)3学期 - 各学校での5つの力の分析報告
平成27年度	- 学び力の向上 - 家庭学習の充実を図る。 - 算数アンケートの活用 - 書く力の向上 「ことばタイム」(視写) - 読書活動の推進 - 各教科で書く活動を行う - 算数・・・計算タイムの継続 - 思考力したことを記述できる力の育成、論理的に説明する力の育成 - 校内研究授業の充実と活性化 - PDCAサイクルによる取り組みの推進	- 多様な動きの育成 - 茨木っ子運動を運動会や授業の準備体操として取り組む - からだ作りの向上 - マラソン週間・大会の設定 - なわとび週間の設定 - 鉄棒、鉄棒カード配布 - 指導力の育成 - 全職員スポーツテストに向けて講習を受講 - 指導ポイントを学ぶ	- 平成26年度の取り組みの継承と深化 5つの力の課題を克服する取り組みと成果の中間報告(共通する委員会で検討) 1年間のなかで、旧小6担当と中学3年担当による引継ぎ強化(年に複数回の授業参観、情報交換会を実施) 2学期末に5つの力についてアンケート調査 - 小中連携通信の発行 - 校区内あいさつ運動 - 言語活動の向上取り組み
平成28年度	- 全国学力学習状況調査結果を踏まえて課題解決に向けて取り組む。 - 茨木っ子ジャンプアッププラン28の取り組みの検証と次年度以降の取り組みの模索(PDCAサイクル)	- スポーツテストに向けて取り組む。 - 茨木っ子ジャンプアッププラン28の取り組みの検証と次年度以降の取り組みの模索(PDCAサイクル)	- 平成26年度以降の取り組みの継承とさらなる深化 5つの力の課題克服に向けて取り組んだ成果の交流 3ヶ年のジャンプアッププランの総括と新たなジャンプアッププランの構築